



表紙の説明

明治38年留萌第2教育所宮崎政義氏日曜ごとに出張し授業開始。40年留萌第2簡易教習所として設置。42年留萌第2尋常小学校付属樽真布特別教授所。大正4年樽真布尋常小学校。昭和16年留萌郡樽真布国民学校。22年留萌町立樽真布小学校。同年市立樽真布小学校。



30年市立樽真布中学校併設開校。現在に至る。

校舎は、大正10年全面改築。更に昭和26年校舎移転増築。現校舎は昭和41年5月16日に新築完成され現在に至っている。



留萌 いまむかし

第五十七回

留萌の神楽

夕闇に笛と太鼓とジャンジャンの音が響き渡る。

「もうすぐ、お祭りだなあ。」お祭りとは、留萌神社の祭礼のことである。一つの響きは元町（川北）方面から、もう一つは黄金岬のほうから響き渡ってくる。祭礼が近づくにつれてこのお囃子にも熱気がこもってくる。その音に誘われて会館を覗いてみると、屈強な若者たちが噴き出る汗をものともせず、一方に負けてたまるかと練習の総仕上げにかかっている。時代は昭和初期、留萌の旧市街と川北の獅子神楽の練習風景である。

二つの獅子舞は競いあうことによつて留萌の獅子神楽として定着し、留萌の人に親しまれていた。この神楽に参加することが若者たちのそして子供たちの夢であった。

下北地方では、獅子神楽は悪魔払いの儀式として定着しており、獅子頭を権現様として崇め、村の家々をまわりお清めをしたといわれる。この踊り手たちが毎年留萌のニシン場へ雇われてきて、故郷の風習を持ち込んでいった。ニシン場では付属の建物の新築など縁起をかついで獅子神楽による「屋固め」を行ったり、新造船の進水式、また、その年の豊漁を願って網おろしの祝の席上で獅子神楽が演じられたと言われている。実際、旧市街にあった神楽の獅子頭は原のものを最初は借用して始めたものだという。

旧市街の獅子神楽は時代の流れとともに中止され、今では元町の神楽だけになってしまった。もとは旧市街が雌獅子、元町が雄獅子と一対だったものである。もう、対の獅子神楽の再現はむずかしいであろうか。



ちびっこギャラリー

お子さんの絵を募集しています。 ☎2-1801内線293番までご連絡ください



「うんどうかい」(みどり保育園)
やました たつやくん(6歳・栄町)

つなひきのえをかきました。ぼくのくみが、かちました。ひるは、おとうさんやおじいちゃん、かぞく7にんで、おいしいおべんとうをたべました。